平成30年度　第2回萩市地域公共交通会議　議事要旨

日　時：平成30年5月14日（月）　14：00～16：00
場　所：萩市役所大会議室

1. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今より、第2回萩市地域公共交通会議を開始いたします。本日委員26名のうち、代理出席を含め24名の委員が出席されましたので会議成立であることを報告いたします。

2. 会長挨拶

会長：4月16日に、第1回目の公共交通会議を開催し、現在高齢化が進んでいる中で高齢者の足の確保が大きな課題であることを踏まえ、萩市の公共交通の現状について説明致しました。市や交通事業者・市民の三者が協働して持続可能な今後の市民ニーズに対応した、市民の暮らしに密着した萩市地域公共交通網形成計画を策定してくことについてご理解いただき、委員皆様からもさまざまな意見をいただきました。本日は第2回目の会議ということで、これからの公共交通網ネットワークあるいは萩市における公共交通の在り方について検討する上で極めて重要なデータとなる、「市民アンケート」、「公共交通利用者へのヒアリング調査」等について協議をお願いします。

今大きな課題となっている、高齢者・交通弱者の足をどのように確保するのか、一方、公共交通環境の厳しい中で、維持・確保の観点で持続可能な公共交通をどのように考えていくのか、大きな課題を踏まえながら今後の計画策定に向けて検討を進めていきます。そうした観点から今回の調査は極めて重要な調査と考えておりますので、委員の皆様方には忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

副会長：会議にあたり2点ほどお話しさせていただきます。1つは、高齢化という要素は非常に重要なのですが、そこで考えなければいけないのが、これから高齢者になられる方は、基本的に運転免許を所有されている方なので、普段運転できずに公共交通を乗られる方と

は、異なることが挙げられます。高齢者に対し、車を運転できる状況で、免許返納などの働きかけもみられるが、なかなか踏み切れないことも現実として多いという状況があります。

このような状況で、身体的に運転が難しくなると、次のステップでは、公共交通ではなく、福祉の領域に移行してしまうということも現実としてあると聞いています。こうなると、公共交通の占める領域がとても小さなものになるという課題が発生します。ここまで来ると、公共交通の経営は成り立たず、財政的に厳しくなるので、これらを踏まえると、公共交通を使う方の範囲をもう少し広げていくことが必要になります。このため、公共交通を維持するには、もう少し若い世代、例えば今回の調査にあるような高校生の方、あるいは観光利用も含めて考える必要があるかと思います。

またもう１点、萩市では都市計画の方で、立地適正化計画の策定を検討しております。国の方では、今回の公共交通網形成計画とある程度リンクさせて考えるよう、定められています。その点を考えた場合、例えば萩の活性化を担う１つの核として、特定の場所を拠点として据えていくような話もあるので、そのような拠点と周辺に居住する住民をつなげる交通手段をどのように考えるのか、あるいは中心部といいながらそれなりに広く、例えば病院や商業施設のある程度広がっている状況で、どのような移動手段を確保していくか。そのような点を考えていく必要があります。

現時点の気付きですが、これらも含めて、今後随時ご指摘いただければと思います。

3. 議事

(1)公共交通に関するニーズ等把握調査について(資料1～4)

事務局：資料１～４説明（省略）

会長：ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

稲原委員：6月～8月に調査するとのことですが、民生委員に依頼する内容もあるため、民生委員の代表を当会議に呼ぶ必要があるのではないでしょうか。

事務局：民生委員への調査依頼については、各地域の民生委員の定例会にて、依頼を実施しております。来週火曜までにすべてを回り終わる予定で進めています。

稲原委員：民生委員が町内会をまたいで対応している場合があり、町内会と民生委員では、コミュニケーションがとりづらい点を留意していただきたい。

事務局：事務局と福祉部で協議いたしまして可能であれば会議にご参加いただく方向で検討致します。

横山委員：質問5の「家族の構成」の設問内容では、回答者の運転の有無がわかりますか。

事務局：運転できるかどうかについては、質問9において、確認致します。

稲原委員：まぁーるバスの市内と市外の乗車数や利用する高齢者の人数、運行経費はどれだけ赤字になっているのか、わかる範囲で教えていただきたい。今日も3人くらいしか乗車がなかった。大きい車輌だと交通妨害にもなるので、もう少し小さい車両でもいいのではないとの話も聞きます。

事務局：現時点では、各バスの乗車人数は把握しておりません。今回、バスを含め全公共交通機関に乗り込んで乗降調査を行うことで、ある程度把握できると考えています。

稲原委員：「市民」ではなく、少子高齢化による「高齢者」の移動手段が問題であることから、市内の高齢者の利用状態を把握しておくべきではないでしょうか。

事務局：これまで乗降調査を行っていないため、利用高齢者の割合等はお答えできません。まぁーるバスについては、年によって若干の増減はありますが、年間おおよそ4,000万円弱の赤字となります。今回の調査で状況をしっかりと把握し、その利用者の方の意見をお伺いしたいというのが調査の主旨だということをご理解いただきたいと思います。

波多野委員：質問 11 について、ぐるっとバス等は、バス停がないので、ない場合はどう記入すると良いでしょうか。

事務局：ご指摘いただいた通り、ぐるっとバス等は地区によっては定時・定路線で運行していないものも多いので、調査票の設問内容や回答方法、記入方法を改善致します。

大田委員：2,000 名を無作為に抽出とあるが、調査対象の年齢層に留意していただきたい。自身を含め、65 歳位の方は車利用が多く、あと 10 年ほどは公共交通を利用しての移動は考えていないと思われます。75 歳以上が危機感をもっていると思われるため、その辺を把握していただきたい。もし、65 歳の方のところにこのアンケートが来ても関係ないと感じると思います。私の地区もぐるっとバス等を利用しています。デマンドやぐるっとバスの利用者は短いこともあり、行政の方で利用状況は把握してると思います。

地域により条件が異なる為、アンケート自体が難しいと思います。公共交通のバスや駅が近くにある方が答えるアンケートでは、バス停まで 1～2km あるような方については、このアンケートからは意見が汲めないと思います。私も民生委員で、事務局のほうからこのアンケートについては聞いていましたが、実際この設問を見たら調査を依頼されてもかなり揉めるのではないかと思います。このアンケートは私にとっては何を目的とされているのか、理解ができません。これは民生委員として自信をもって意見を聞ける調査票ではないです。例えば「地域内でお困りの方はいらっしゃいますか」という設問に対しては殆どが「いない」と回答すると思います。何故なら私が担当している 40 戸で、本当に困っている方は少ないし、65 歳以上の方は自身の運転で移動されていますから、困っていないということになってしまいます。本当に困っている方から意見を伺うのは難しいのではないでしょうか。もう少し、このアンケート調査についてご協議いただけたらと思います。

事務局：路線バス等の利用が難しい地域のアンケートの記載の方法についてご意見をいただきました。このアンケートは、それぞれの利用目的に応じた交通手段の状況や、現在の公共交通体系に関するご意見等をいただくという、基本的な事項を伺うものとして作成しています。これを踏まえ、具体的な部分のご指摘をいただけると幸いです。市内全域の皆様の意見をいただく形となりますので、アンケートとして回答しづらい部分も出てくる事も推定されますが、その部分は自由に意見を書き込める欄も設定していますので、そちらも活用していただけたらと思います。

大田委員：資料 3 の民生委員アンケートについては、基本的に違うと感じました。私達この交通会議に地区代表として参加している者は、公共交通の中でデマンドやぐるっとバス等の運行に希望を持っています。路線バスを運営している方は運営する側の考えをもっておられて、我々と主旨が異なっています。それを一緒になって考えをまとめるのは難しいのではないでしょうか。まずは分科会等で協議をさせていただけたら、意見が出やすいのではと思います。

事務局：基本的にアンケートでは、まずは市全体の外出状況を聞くということでご了解いただけたらと思います。1 番大事なのはこの市民アンケートの買物時等の外出行動を把握することと考えています。

大田委員：質問 12 について、病院 1 箇所の移動だけを聞いているが、実状として、高齢者の通院している病院は、診療所なども含めると 3 箇所程度あります。買い物についても同じ事が言えます。それらも踏まえて、このアンケートは難しいと感じました。

副会長：買物も近くで食料品、それ以外は違うところ等を使い分けている等、人によって色々あると思います。細かく聞いていくと記入する事も増えていきますので、そのバランスについても考慮が必要と思いますが、通院についても同じようなことが言えますので、改訂の余地があるかと感じます。また買い物、通院だけでなく、地域によっては、金融機関は銀行だけではなく、郵便局・農協・漁協等も利用されるので、これらの検討も必要です。この設問箇所は大事なので、このあたりを重点的に聞けるようなものにしてはどうでしょうか。

また、この調査の意義から申し上げると、先ほど皆様からご指摘があったように、現在公共交通を必要とされている方に伺うのが一番良いのですが、ご高齢の方は数年で状況が変わっていく為、潜在的に、必要となりうる人にも調査を広げ、通院・買物等の場所を把握し、それが現状の策と合致しているのかを把握することが重要になると考えます。市街地外の周辺地区については、先ほど地域毎に意見を伺う、という意見もございましたが、それも効果があると思います。ある程度全体としての行動の把握に意義があると考えています。資料2のアンケートの分量が多くなってしまう事に対しては、意識的な設問をセーブして、行動把握に重点を置くというやり方もあるのではないでしょうか。

稲原委員：事務局と委員の考えに差異があります。今後、民生委員に調査依頼と説明を進める中で、詰めていく必要があると思います。アンケート調査内容については、民生委員と会長に一任することは出来ないでしょうか。

会長：これまでの意見を整理すると、住民の移動を把握することを主目的として、住民がどこに行きたいのかをアンケート調査にて把握することと致します。また65歳以上の年齢層に留意しながら把握しますが、潜在的に利用するかもしれない方を意識しながら作成します。アンケート調査内容の修正については、民生委員の会長にご相談の上、事務局会長に一任いただけたらと思います。その際に留意すべき点のご意見がありましたらお願いします。

副会長：無作為抽出については、周辺部で回答者が少数の地域が出てしまうと、その方の意見が全てになってしまう可能性もあるので、完全な無作為抽出ではなく、配慮が必要と思います。

事務局：アンケートの配布は、完全な無作為抽出ではなく、行政区ごとに人口比に応じた抽出を考えています。

波多野委員：主な移動先は、各地域の総合事務所と診療所、萩市の病院がメインになると思われます。アンケート票の検討においては、その前提で考えていただきたい。

事務局：事務局の方で、民生委員や福祉と調整させていただきます。

会長：地域ごとに地域内の移動、萩市への移動の特徴があるという実態に応じたアンケートにする為、民生委員の会長の一任で調査内容を調整することと致します。市民を対象としたアンケート調査を、民生委員を通じて行う方法と、民生委員の方へのアンケート調査を実施するという、基本についてはご理解をいただき、内容については先程いただいたご意見等を踏まえながら調整させていただくということで宜しいでしょうか。

（一同同意）

（2）公共交通に関するニーズ等把握調査について（資料5）

事務局：資料5説明（省略）

今井委員：路線バスのアンケート調査について、調査時間は把握しないのでしょうか。

事務局：路線バスの便ごとに集計し、該当便は判別できるため、調査時間は把握できますが、調査員による時間の記入箇所を、別途設けます。

今井委員：まぁーるバスは路線バスに該当するということでいいでしょうか。

事務局：そのとおりです。

今井委員：先ほどの内容に戻りますが、資料2、資料4の調査について、ぐるっとバスとまぁーるバスがない状況です。

事務局：ご指摘を踏まえ、資料2、資料4の選択肢に追記致します。

今井委員：公共交通に関する不満な点について、資料2と資料4の設問数が異なるので、同じ内容の質問をするのであれば、設問の整合をとっておいた方が良いかと思います。

事務局：ご指摘を踏まえ、設問の整合をとるよう、修正致します。

岡本委員：バス利用者のアンケートについて、利用者には観光目的でバスを利用している人もいるかと思いますが、これらの利用者の意見は反映させないのでしょうか。

事務局：今回の目的は、まずは萩市にお住まいの方の利便性を向上させることを第一優先とします。観光利用については、乗り込み調査時に、例えば新山口駅から萩までの利用者について、利用動態を把握します。また別途観光協会へヒアリングを実施することで、観光利用者のニーズ把握などをフォローしたいと思います。

秋本委員：網形成計画の策定にあたっては、持続可能性のある公共交通の確立についても記載するようあります。持続可能な公共交通を目指すためには、利用していない方の利用促進をどのように図るかも重要ではないかと考えております。通勤・通学についても同様です。今後、計画策定を進めるにあたっては、そのあたりも踏まえて進めていただけたらと思います。

副会長：高校生アンケートについてですが、スクールバスについて、公共交通と競合していることが多々みられます。地域によっては、スクールバスとの関係をすみ分けて考えられている地域もあります。高校生に焦点を当てる場合は、関係者を協議の場に呼ぶことも必要な場合も考えられます。他に、まぁーるバス等の利用状況について、今回の調査のみではなく、将来的にも乗降者数をモニタリングする方法を検討されればと思います。

4. その他

会長：その他発言がございましたらお願いいたします。意見がないようであれば、本日の議事について終了しましたので進行を事務局へお返しいたします。

5. 閉会

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。公共交通に関するニーズ等の把握調査では、移動に関する実情の把握と持続可能な公共交通体系を把握するための調査を実施してまいります。特に65歳以上のアンケート調査については、民生委員との調整を踏まえて実施してまいります。

事務局：以上で会議を終了いたします。

以上